

平成28年度第4回
公立大学法人公立はこだて未来大学経営審議会議事録

1 日 時 平成29年3月22日（水）11:00～11:55

2 場 所 公立はこだて未来大学4階特別応接室

3 出席者

委 員：(学内委員) 片桐理事長（議長）、松原副理事長、川嶋理事、政田理事
(学外委員) 阪口委員、伏谷委員、安井委員

監 事：鎌田監事、和根崎監事

事務局：佐藤企画総務課長、相馬財務・研究支援課長、亀田教務課長

4 議 事

(1) 審議事項

① 平成29年度計画（案）について

- ・ 事務局から、資料1に基づき説明があり、以下の質疑および意見交換があった。

ア 高専からの編入の状況について

理事長から、特別選抜（推薦）制度を設けており、編入学生数は例年5～6名で、来年度は5名であるという回答に対し、委員から、今後も積極的に進めてほしいとの意見があった。

イ 留学の状況について

理事長から、交流協定を締結している大学からの留学が大半で、フランスや中国から留学生の受け入れがある。住居費が高いことが障害となるため、将来的には寮の必要性も考えている。ヨーロッパへの留学は高い英語レベルを要求される傾向にあるとの回答があった。

ウ 函館市内への就職状況について

理事長から、6割は首都圏へ就職している旨の回答があり、委員から、大学生向けに将来函館に戻る選択肢や魅力を感じる機会を与えることが、函館にとって有益になるのではないかと意見があった。

エ インターンシップの実施状況について

理事長から、本学ではインターンシップを単位化しており、就職活動の一環として、函館・東京・札幌等で約7割の学生がインターンシップに参加しているという回答に対し、委員から、函館でインターンシップに参加することにより、函館に戻ってきたいと思うきっかけに

なるのではないかとの意見があった。

オ 企業誘致における函館市との連携について

委員から、函館市が進めている企業誘致について、連携をとりながら進めてほしいとの意見があり、理事から、秋葉原で実施した企業交流会に約250社の企業の参加があり、今回から市の担当者も参加した旨の説明があり、今後も函館市と連携を取りながら進めていきたいとの回答があった。

カ 振興基金の増額とその運用益等を活用した奨学金制度の創設等の検討状況と実施時期について

理事長から、当初は振興基金の利子を用いた奨学金の創設を想定していたが、基金の元本を取り崩した運用について、検討していきたい旨の説明があった。これに対し、委員から、基金の在り方について再検討していく必要があるのではないかとの意見があった。

キ 女性研究者比率の向上に向けた取り組みについて

委員から、具体的な数値目標があるのか、また、男女共同参画等の関係から要請はあるのかとの質疑があり、理事長から、特に要請はなく、具体的な数値目標の設定は現状考えていないとの回答があった。これに対し、委員から、なぜ本学において女性研究者の比率をあげなければならないのか、また、その必要性があるのかどうかについて、説明していく必要があるのではないかとの意見があり、理事長から、教員の中で女性が占める割合が、現状少ないという認識があり、比率を向上させていきたい旨の説明があった。

ク ハラスメント委員会の運用について

委員から、本学学生ではないが、学生から、ハラスメント委員会について、相談しにくい、何回も話を聞かれる、解決に時間がかかる等の運用面での使いにくさを指摘する声があるが、この点についてどのように考えているかとの質疑があり、理事長および理事から、現状そのような報告は受けていないが、相談のしやすさ、女性教職員の配置等、委員の人選には気を配っているとの回答があった。これに対し、委員から、学生に沿うような運用を心がけてほしい旨の意見があった。

以上の質疑および意見交換ののち、平成29年度計画（案）について、原案のとおり了承された。